

V 施工管理記録様式

(白紙)

施工管理記録様式目次

様式番号	名 称	備考
1	出来形測定品質管理総括表（表紙）	
2-1	測定結果一覧表 1	
2-2	測定結果一覧表 2	
2-3	暗渠排水工事測定結果一覧表	
2-4	牧草生育調査記録表	
3	出来形管理図	
4	度数表	
5	X 管理図	
5-1	$\bar{X}-R$ 管理データシート	
5-2	$\bar{X}-R$ 管理図	
6-1	$X-R_s-R_m$ 管理データシート	
6-2	$X-R_s-R_m$ 管理図	
7	土質試験結果一覧表	
8	土・凍上抑制層の突固め試験	
9	現場における土の単位体積重量試験（砂置換法）	
10	盛土締固め総括表	
11	現場密度および締め固め時の含水比較試験取りまとめ図（取りまとめ例）	
12	凍上抑制層・路盤工材料試験成績一覧表	
13	凍上抑制層・下層路盤材料のふるい分け試験一覧表	
14	路盤材料の突固め及び修正CBR試験成績表	
15	路盤材締固め度測定総括表	
16	基層・表層工の骨材試験成績一覧表	
17	ふるい分け試験取りまとめ図（記載例）	
18	アスファルト混合物の温度測定結果一覧表	
19	アスファルト混合物の密度試験成績一覧表	
20	計量自記記録合格判定値	
21	計量自記記録値判定成果	
22	アスファルト合材の性質計算	
23	アスファルト合材舗設実績表	
24	舗装路面の平坦性測定	
24-1	区画線出来形測定結果表（1）	
24-2	区画線出来形測定結果表（2）	

様式番号	名 称	備考
24-3	路面表示出来形測定結果表	
25	骨材試験成績一覧表	
25-1	コンクリート骨材ふるい分け試験取りまとめ図（記載例）	
26	コンクリート管理試験日報	
27	空気量、スランプ等の取りまとめ図	
28	コンクリート品質検査報告書	
28-1	寒中コンクリート温度管理記録表（例）	
28-2	レディーミクストコンクリート配合計画書	
28-3	レディーミクストコンクリート納入書	
28-4	コンクリート強度試験表（シュミットテストハンマーによる）	
29	杭打ち成績表	
30	杭打込記録表（記載例）	
31	杭貫入量測定記録図	
32	場所打ち杭施工記録表	
33	場所打ち杭管理記録図（例）	
33-1	矢板出来形管理表	
34	井筒・深礎施工記録表	
35	井筒・深礎施工管理図（例）	
36	PCグラウト試験	
37-1	プレストレッシング管理表（1）	
37-2	〃 （2）	
38	高力ボルト締付け検査記録票（例）	
39	キャンバー測定記録表	
40	膜厚測定記録	
41	塗膜厚の度数分布表	
42	欠 番	
43	欠 番	
44	欠 番	
45	欠 番	
46	欠 番	
47	欠 番	
48	欠 番	

様式番号	名 称	備考
49	欠 番	
50	欠 番	
51	欠 番	
52	欠 番	
53	点検表	
54	搬入主要資材検収整理簿	
55	工事写真帳（添付用紙）	
56	鉄筋組立検査一覧表	
57	欠 番	
58	欠 番	
59	起伏修正工（Ⅰ）における不陸均しの測定基準	
60	さく井工事柱状図	
61	均平度測定簿	

様式(1)

年度	工事	出来形測定 品質管理	総括表
	(工種)	種目	
	(施工者)	受注者名	
	(現場代理人)	氏名	
	(主任技術者 または監理技術者)	氏名	
	振興局	出張所	

注1. 出来形（品質）管理図表は、本表紙様式に全工種分を一括綴りすることができる。

注2. 工種は土木（盛土）、杭工（コンクリート杭）、コンクリート擁壁工等とし、種目は標準高、厚さ、巾等と記入する。

出来形管理図

工種名

測定者

- 注1. 工種名は、土木（盛土）杭工（コンクリート杭）コンクリート擁壁工等と記入する。
 2. 特性は、基準高出来形管理図表、厚さ出来形管理図表、幅出来形管理図表と記入する。
 3. 番号は、STA またはロット番号をあらかじめ定め、起点から終点に向かって順序に記入しておく。

4. 月日は当該測点番号の測定月日を記入する。
 5. 設計値との差の単位を定め目盛に数値を記入する。
 6. 図表には許容範囲の線を朱書で記入する。
 7. 記事は手直の処置等を記入する。

品質管理・公式・係数・記号表

公 式	\bar{x} - R 管理図		X - Rs - Rm 管理図				
		\bar{x} 管理図	R 管理図	C	x 管理図	Rs 管理図	Rm 管理図
	C. L.	$\bar{\bar{x}}$	\bar{R}	C. L.	\bar{x}	\bar{R}_s	\bar{R}_m
	U. C. L.	$\bar{\bar{x}} + A_2 \bar{R}$	$D_4 \bar{R}$	U. C. L.	$\bar{x} + E_2 \bar{R}_s$	$D_4 \bar{R}_s$	$D_4 \bar{R}_m$
L. C. L.	$\bar{\bar{x}} - A_2 \bar{R}$	$D_3 \bar{R}$	L. C. L.	$\bar{x} - E_2 \bar{R}_s$	-	$D_3 \bar{R}_m$	
\bar{x} - R 管理及び X - Rs - Rm 管理の管理限界は 3 δ を原則とする。							
係 数	n	A_2	D_4	d_2	E_2		
	2	1.88	3.27	1.13	2.66		
	3	1.02	2.57	1.69	1.77		
	4	0.73	2.28	2.06	1.46		
	5	0.58	2.11	2.33	1.29		
記 号	x : 測定値		$\bar{R} : \sum R / K = (R \text{の和}) / (\text{組の数})$				
	a, b, : 測定値を決めるための個々の測定値		$\bar{R}_s : \sum R_s / (K - 1) = (R_s \text{の和}) / \{ (\text{xの数の}) K - 1 \}$				
	$\bar{x} : \sum x / n = (1 \text{組の測定値の和}) / (\text{試料の大きさ})$		Rs : 移動範囲 (互いに相隣れる二つの測定値の差の絶対値)				
	$\bar{\bar{x}} : \sum \bar{x} / k (\bar{x} \text{の和}) / (\text{組の和})$		Rm : 測定誤差に関する範囲				
	R : 範囲 = (xの最大値) - (xの最小値)		$\bar{R}_m : \sum R_m / K = (R_m \text{の和}) / (\text{組の数})$				
C. L. : 管理中心線							
U. C. L. : 上方管理限界線							
L. C. L. : 下方管理限界線							

様 式(5)

X 管 理 図

名 称					期 間	自	年 月 日	
品 質 特 性		測 定 単 位				至	年 月 日	
規 格 限 界	最 大	試 料	大 小 さ		測 定 者			
	最 小		間 隔					
測 点								
月 日								
記 事								

- [注] 1. 記事欄には、施工管理基準に定められた事項、異常原因、その他必要事項を記入する。
 2. 管理図は、仕様書による規格限界線を朱書で記入する。

様式(5-1)

X-R管理データシート

名 称				期 間	自	年 月 日
品 質 特 性			測 定 単 位		至	年 月 日
規 格 最 大			試 料 大 き さ 間 隔	測 定 者		
限 界 最 小						

測点または は月日	試 験 番 号	測 定 値					計 Σ x	平均 値 $\frac{\Sigma x}{n}$	範 囲 R	項 目	\bar{X}	\bar{R}
		x ₁	x ₂	x ₃	x ₄	x ₅						
	1											
	2											
	3								平 均			
	4								個 数			
	5								小 計			
									累 計			
	6											
	7											
	8								平 均			
	9								個 数			
	10								小 計			
									累 計			
	11											
	12											
	13											
	14											
	15											
	16											
	17											
	18								平 均			
	19								個 数			
	20								小 計			
									累 計			
記 事									n	d ₂	D ₄	
									2	1.13	3.27	
									3	1.69	2.57	
									4	2.06	2.28	
									5	2.33	2.11	

- 〔注〕 1. 品質特性、測定単位は、施工管理基準により記入する。
 2. 規格限界、設計基準値は施工管理基準、設計図書、仕様書に定められた値を記入する。
 3. 管理限界線の引直しは5+5+10+20+20方式による。
- 〔備考〕 _____ 管理限界線計算のための区間を示す。
 _____ 上記の管理限界を適用する区間を示す。
4. 21組～40組までは別に新しいデータシートに記入する。以下20組毎に同様とする。

様 式 (5 - 2)

X - R 管理図

名 称					期 間	自	年 月 日
品 質 特 性		測 定 単 位				至	年 月 日
規 格 限 界	最 大			試 料	大 小 間 隔	測 定 者	
	最 小						
x							
R							
組 の 番 号							
記 事							

[注] 1. 管理図は様式 (5 - 1) X - R 管理データ・シートから記入する。

2. 記事欄には、異常原因、その他必要事項を記入する。

X-Rs-Rm管理データシート

名 称							期 間		自 至		年 月 日			
品 質 特 性		測 定 単 位									年 月 日			
規 格 限 界	最 大						試 料 大 小 間 隔	測 定 者						
	最 小													
測点または 月日	試 験 番 号	測 定 値					計 Σ x	平 均 値 x̄	移 動 範 圍 Rs	測 定 値 内 の 範 圍 Rm	項 目	X	Rs	Rm
		x ₁	x ₂	x ₃	x ₄	x ₅								
	1													
	2													
	3									平 均	x̄	R̄s	R̄m	
	4									個 数				
	5									小 計				
										累 計				
	6													
	7													
	8									平 均	x̄	R̄s	R̄m	
	9									個 数				
	10									小 計				
										累 計				
	11													
	12													
	13													
	14													
	15													
	16													
	17													
	18									平 均	x̄	R̄s	R̄m	
	19									個 数				
	20									小 計				
	U	L								累 計				
記 事	x : UCL = x̄ + E ₂ · R̄s										n	d ₂	D ₄	E ₂
	LCL = x̄ - E ₂ · R̄s										2	1.13	3.27	2.66
	Rs : UCL = D ₄ · R̄s										3	1.69	2.57	1.77
	Rm : UCL = D ₄ · R̄m										4	2.06	2.28	1.46
											5	2.33	2.11	1.29

- [注] 1. 品質特性、測定単位は、施工管理基準により記入する。
 2. 規格限界、設計基準値は施工管理基準、設計図書、仕様書に定められた値を記入する。
 3. 管理限界線の引直しは5+3+5+7+10+10+10方式による。
- [備考] ———— 管理限界線計算のための区間を示す。
 ----- 上記の管理限界を適用する区間を示す。
4. 以下最近の20個（平均値Xを1個とする）のデータをもちい次の10個に対する管理限界とする。

様 式 (6 - 2)

X - R s - R m 管 理 図

名 称					期 間	自	年 月 日
品 質 特 性			測 定 単 位			至	年 月 日
規 格 限 界	最 大			試 大 き さ	測 定 者		
	最 小			料 間 隔			
x							
Rs							
Rm							
組 の 番 号							
記 事							

- [注] 1. 管理図は様式 (6 - 1) X - R s - R m 管理データ・シートから記入する。
 2. 記事欄には、異常原因、その他必要事項を記入する。

様式(7)

土質試験結果一覧表

工種名

測定者

試料	土	No.							
試料土の深さ	地表面から								
	基準面から								
試料土採取年月日									
試料土採取時の天候									
土粒子の密度									
粒度	最大径								
	2.0mm	ふるい通過率 %							
	425 μ m	" %							
	75 μ m	" %							
コンシシイ	液性限界 %								
	塑性限界 %								
	塑性指数								
分類	統一分類法								
	日本統一分類法								
	見かけ								
自然土と締固め土	現場含水比 %								
	現場乾燥密度 g / cm ³								
	最適含水比 %								
	最大乾燥密度 g / cm ³								
円錐貫入試験 (コーン指数)	地山	(N=0)							
	室内	N=20							
		N=40							
		N=80							
		N=120							
ボーリング柱状及び中心線に沿う土層断面図									

記事

注) 記事欄には試験機関名その他の試験結果等を記入すること。

様 式(8)

土 凍上抑制層 の突固め試験

試料採取地名

試 料 番 号

測定者

試験目的：普通締固め・CBR締固め	乾燥処理前含水比： %	乾燥処理前含水比： %
試験方法の呼び名：試験方法	試験開始前含水比： %	土粒子の密度：
突固め方法：	試料の使用別：繰返し法・非繰返し法	
モールド内径：10cm・15cm cm	試料の準備法：乾燥法・湿潤法	
試料許容最大粒径 mm	許容最大粒径以上の粗粒分の乾燥質量百分率 %	

測 定 番 号	1	2	3	4	5	6	7	8
乾燥密度 γ_d g/cm ³								
平均含水比 w %								



備考 * その他の突固め方法○：ランマー質量 kg、 落下高 cm、 突固め回数 回/層 (層)

** 湿潤法を用いた場合

様 式(9)

注 砂 法	現場における土の単位体積質量試験（砂置換法）	報 告 用 紙
調査名・調査地点		試験年月日
測点番号・深さ：No.		(m) 天 候
所 属		試 験 者

試験用の砂の検定	検 定 マ ス の 深 さ	H						
	測 定 器 番 号	No.						
	測定器および投入した砂質量 (一定重量)	W_1	g					
	測 定 器 質 量	W_2	"					
	投 入 砂 質 量	$W_a = W_1 - W_2$	"					
	検 定 容 器 お よ び 砂 質 量	W_3	"					
	検 定 容 器 質 量	W_4	"					
	検 定 容 器 内 砂 質 量	$W_b = W_3 - W_4$	"					
	測 定 器 お よ び 残 砂 質 量	W_5	"					
	測 定 器 内 残 砂 質 量	$W_c = W_5 - W_2$	"					
	検 定 容 器 の 体 積	$V_c = 206 \times H$	cm ³					
	試験砂の単位体積質量	$\gamma_s = \frac{W_b}{W_c}$	g/cm ³					
	平 均 値	γ_s	"					
	ベースフレードおよび漏斗を満 たす砂質量	$W_f = W_a - W_b - W_c$	g					
平 均 値	W_f	"						

土の単位体積質量測定	試 験 孔 番 号	No.				
	土 質 名					
	土 の 最 大 粒 径	D_{max}	cm			
	容 器 番 号	No.				
	(湿潤土+容器)の質量	W_6	g			
	容 器 の 質 量	W_7	"			
	湿 潤 土 の 質 量	$W_d = W_6 - W_7$	"			
	測定器および投入砂質量	$W_8 (W_1)$	"			
	測定器および残砂質量	W_9	"			
	試験孔にはいった砂の質量	$W_{10} = W_8 - W_9 - W_f$	"			
	試 験 孔 の 体 積	$V = W_{10} / \gamma_s$	cm ³			
	土の湿潤単位体積質量	$\gamma_t = W_d / V$	g/cm ³			
土の乾燥単位体積質量	$\gamma_d = \frac{100 \gamma_t}{100 + W}$					

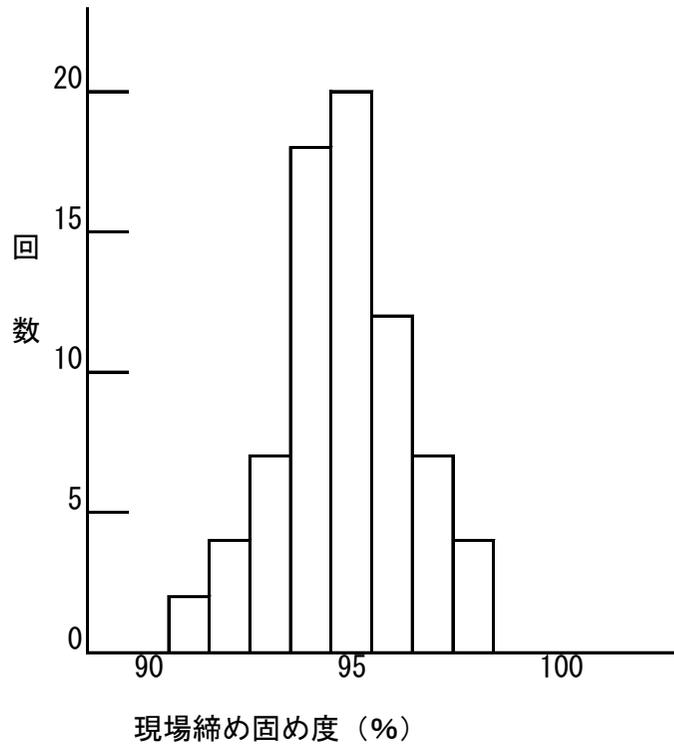
備 考		
土 粒 の 最 大 粒 径	含水量試験 試料最小量	粒土試験 最小量
0.5mm	100g	250g
1.25	200	625
2.5	500	2,000
5.0	1,000	4,000

No.	No.	No.	No.
Wa Wb	Wa Wb	Wa Wb	Wa Wb
Wb Wc	Wb Wc	Wb Wc	Wb Wc
Ww Ws	Ww Ws	Ww Ws	Ww Ws
w = %	w = %	w = %	w = %
No.	No.	No.	No.
Wa Wb	Wa Wb	Wa Wb	Wa Wb
Wb Wc	Wb Wc	Wb Wc	Wb Wc
Ww Ws	Ww Ws	Ww Ws	Ww Ws
w = %	w = %	w = %	w = %
平均含水比 W = %	平均含水比 W = %	平均含水比 W = %	平均含水比 W = %

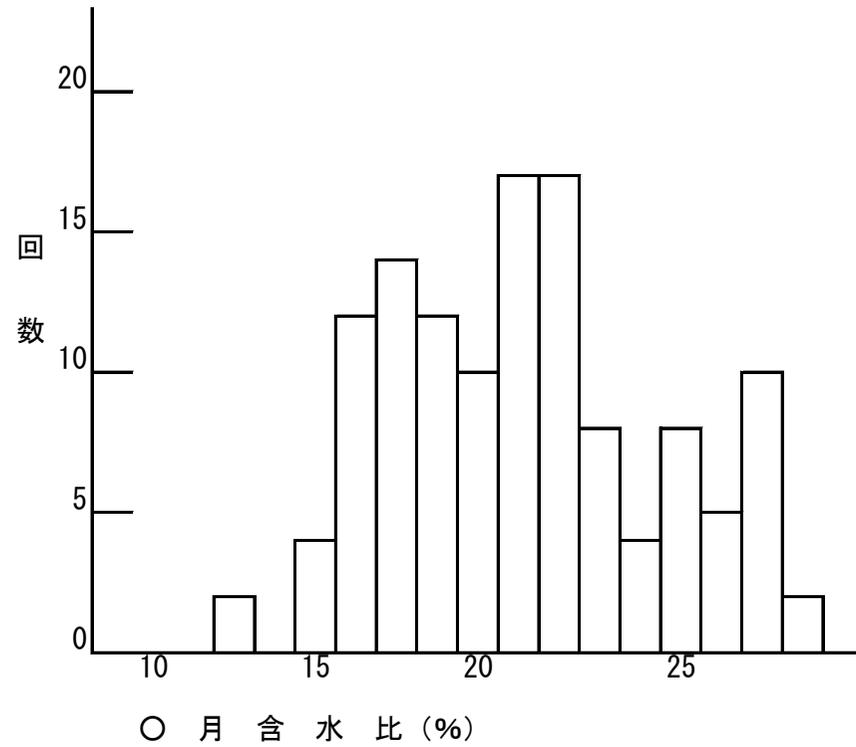
様式 (11)

現場密度および締め固め時の含水比較試験取りまとめ図 (取りまとめ例)

現場密度



締め固め時の含水比



○ 月含水比 (%)
(記入要領) 含水比の図は1ヶ月毎に取りまとめ記入する。

様式(12)

凍上抑制層 路盤工 材料試験成績一覧表

材料名	産地	納入会社

凍上抑制層材料
(火山灰)

75 μm通過量	(%)
強熱減量	(%)
凍上率	(%)
凍結様式	

下層路盤材料
(切込砂利・切込碎石)

修正CBR	(%)
すりへり量	(%)
安定性	(%)
75 μm通過量	(%)

加熱アスファルト安定処理材料
(切込砂利・切込碎石)

比重	
すりへり量	(%)
安定性	(%)

(砂)

75 μm通過量	(%)
(切込砂利・切込碎石)	
75 μm通過量	(%)

粒 度

ふるい目 呼び名	ふるい通過質量百分率 (%)				
	53mm	37.5mm	13.2mm	2.36mm	600 μm

粒 度

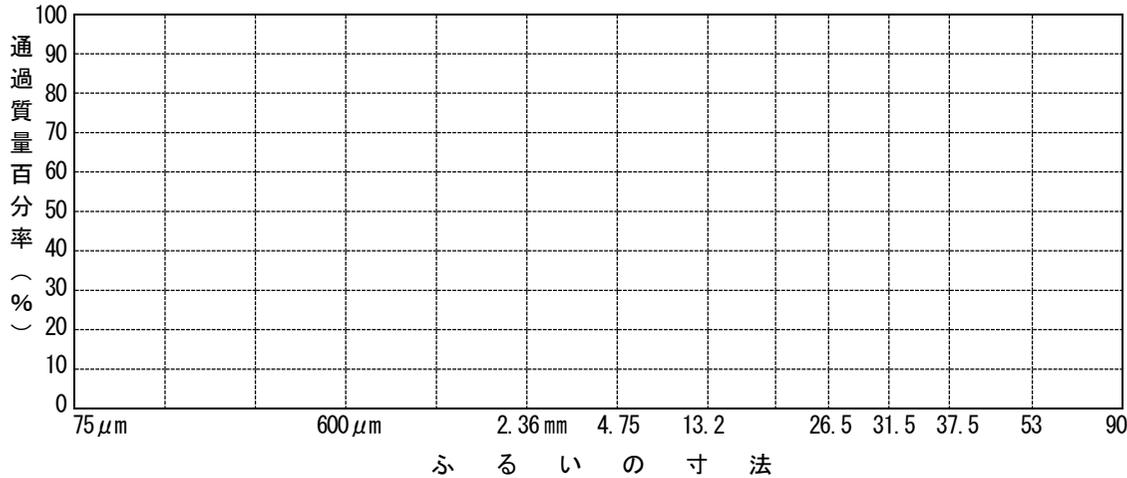
ふるい目 呼び名	ふるい通過質量百分率 (%)					
	37.5mm	31.5mm	26.5mm	13.2mm	2.36mm	75 μm

粒 度

ふるい目 呼び名	ふるい通過質量百分率 (%)			
	90mm	53mm	37.5mm	4.75mm

75 μm通過量—4.75mm以下の質量に対する
75 μm以下の質量の割合

記 事



注) イ 産地及び材料ごとに記入すること。 ロ 仕様書の粒度範囲も記入すること。 ハ 記事欄には試験機機関名その他の結果を記入すること。

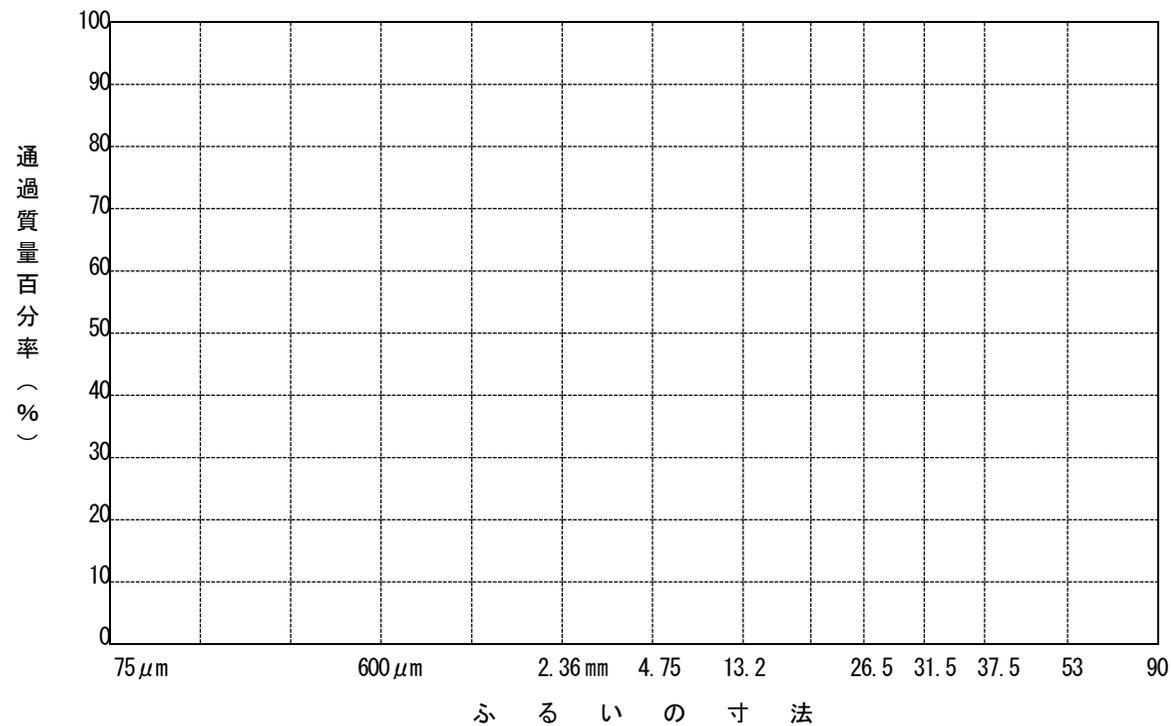
凍上抑制層 材料のふるい分け試験一覧表 下層路盤工

工 事 名

請 負 会 社 名

材 料 名

測 定 者



記
事

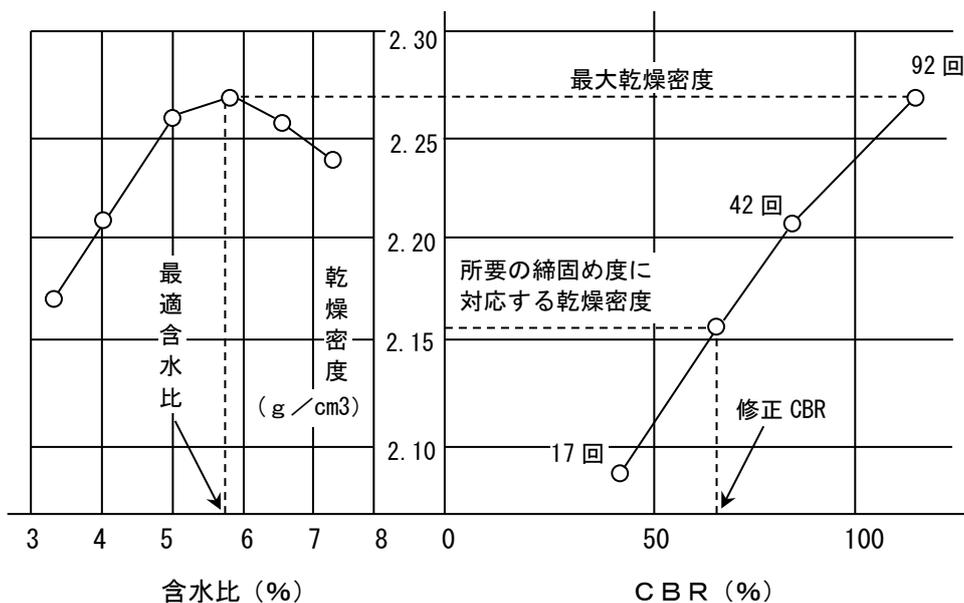
注) 仕様書の粒度範囲を記入すること。

路盤材料の突固め及び修正 CBR 試験成績表

測定者

材料名	産 地	納入会社

乾燥密度・含水比・CBR関係図



最適含水比 (%)	5.6
最大乾燥密度 (g/cm ³)	2.27
締固め度 (%)	95
修正 CBR (%)	66

記事

試 験 目 的 : CBR 締固め

試験方法の呼び名 : 試験方法アスファルト舗装要綱

突 固 め 方 法 : 第 2 法

試料の使用別 : 非繰返し法

モ ー ル ト 内容 : 15cm

試料の準備法 : 乾燥法

試験許容最大粒径 : 38.1 mm

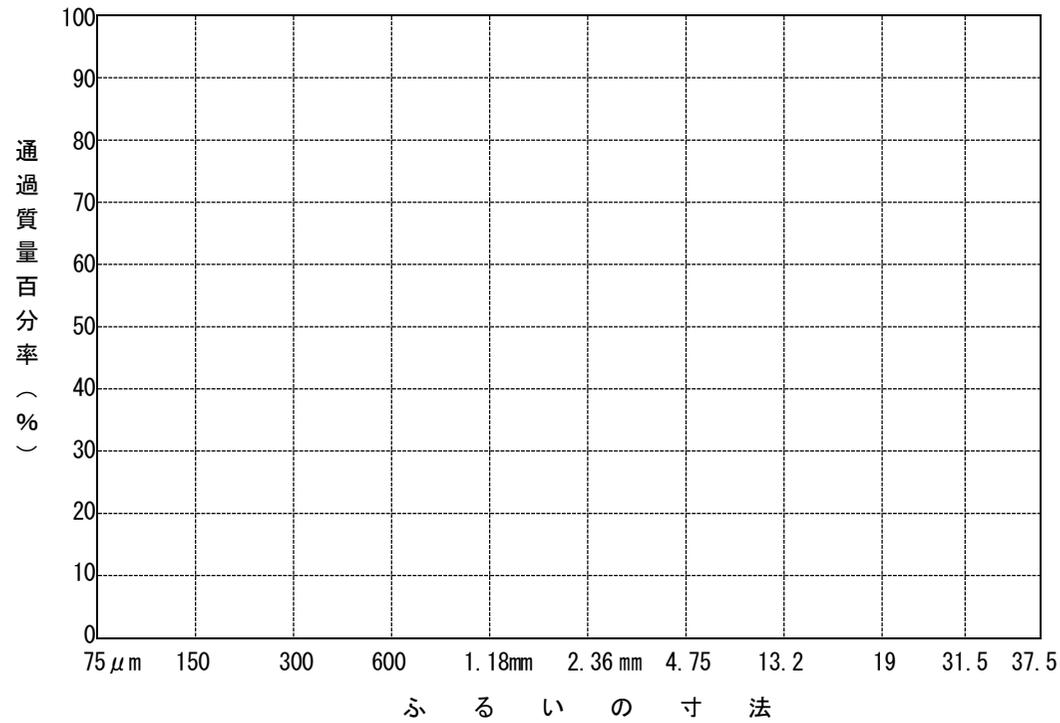
測定番号	1	2	3	4	5	6		
乾燥密度 γ_{dg} / cm ³	2.17	2.21	2.25	2.27	2.25	2.23		
平均含水比 ω %	3.2	4.0	4.7	6.0	6.6	7.4		

(注) 記事欄には試験機関名その他を記入すること。

基層工の骨材試験成績一覧表

材 料 名	産 地	納入会社

測 定 者



アスファルト舗装用材料
砕石・砂利

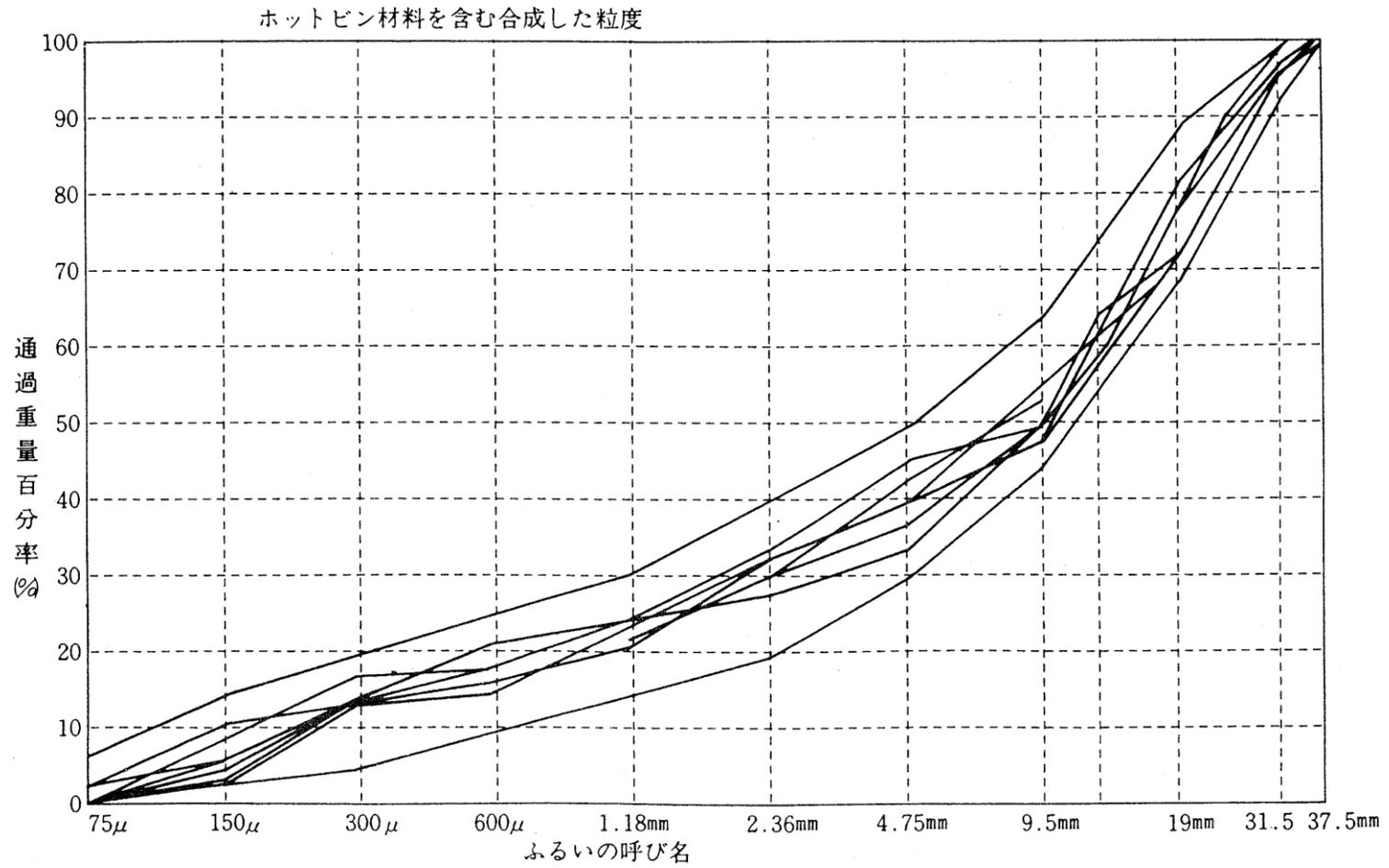
粗骨材	比 重	
	吸 水 量	(%)
	すりへり量	(%)
	安 定 性	(%)

細骨材	比 重	
	吸 水 量	(%)
	安 定 性	(%)

記 事

注) イ. 産地及び材料ごとに記入すること。 ロ. 記事欄には試験機関名その他の試験結果を記入する。

ふるい分け試験取りまとめ図 (記載例)



(記入要領) 各工種ごとに作成すること。

(混合物名)

アスファルト混合物の密度試験結果一覧表

工 種 名

測定者

測定位置	密度 (g/cm ³)	締固め度 (%)	締固め度管理図 (%)	摘 要

記 事	〔基 準〕	仕様書の合格判定値	基準密度
	〔測定結果〕	測定数	測定値の範囲
		合格判定値との対比	平均値

アスファルト合材舗設実績表

工種

工事名

月 日	測 点	延 長	巾 員	舗装面積		合材 屯数					アスファルト						石 粉							
				設計	実際	積算合材		実際	差		積算量			実際	差			積算量			実際	差		
				A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T	U
						Ax	Bx		C-E	D-E	Cx	Dx	Ex		H-K	I-K	J-K	Cx	Dx			O-R	P-R	Q-R
				日計																				
				累計																				
				日計																				
				累計																				
				日計																				
				累計																				
				日計																				
				累計																				
				日計																				
				累計																				
				日計																				
				累計																				
				日計																				
				累計																				
				日計																				
				累計																				
				日計																				
				累計																				

摘要

(注) 1. 実際面積の巾員は50M毎の平均値とする。
 2. 設計面積の巾員は設計値とする。

様 式 (24)

舗装路面の平坦性測定						試験 用紙 報告			
調査・工事名		_____		測定年月日		年 月 日			
測定開始点		_____		測定機の種類		<input type="checkbox"/> 3m [°] ワイルメータ <input type="checkbox"/> 3m直線定規			
測定終了点		_____		測定者		_____			
測定距離		_____							
シート番号		_____							
No.	d	No.	d	No.	d	No.	d	No.	d
1		21		41		61		81	
2		22		42		62		82	
3		23		43		63		83	
4		24		44		64		84	
5		25		45		65		85	
6		26		46		66		86	
7		27		47		67		87	
8		28		48		68		88	
9		29		49		69		89	
10		30		50		70		90	
11		31		51		71		91	
12		32		52		72		92	
13		33		53		73		93	
14		34		54		74		94	
15		35		55		75		95	
16		36		56		76		96	
17		37		57		77		97	
18		38		58		78		98	
19		39		59		79		99	
20		40		60		80		100	
①	Σ d (mm)		*		②	Σ d ² (mm ²)		*	
③	データ数	*		標準偏差 $\sqrt{((2) - (1)^2 / (3)) / ((3) - 1)}$ (mm)				*	
備考									
注) *印の欄は、最後のデータシートのみ記述する。									

